

## 平成29年度 第2回 碧南市図書館協議会 会議録

### 1 日時

平成30年3月8日（木） 午前10時～午前11時30分

### 2 場所

碧南市民図書館 2階会議室

### 3 出席者

#### (1) 出席者

水野利亮、宮本美枝子、石川和昌、杉浦あさの、油谷修子、神谷 猛、  
神谷俊幸、石川まさ恵

#### (2) 欠席者

大澤伸彦、杉浦正勝

#### (3) 事務局職員

教育長：生田弘幸、教育部長：奥谷直人、文化創造課長：村松幸雄、  
市民図書館副館長：関由香、南部分館長：大橋幹広、  
中部分館長：長谷川有里

### 4 傍聴者 0名

### 5 協議会内容

市民憲章唱和

#### (1) 会長あいさつ

#### (2) 教育長あいさつ

#### (3) 報告事項

ア 平成29年度図書館の事業実績（中間報告）について

事務局：平成30年1月末までの事業実績を報告する。資料  
1 ページ目の開催行事一覧表の〈おはなし会〉、〈  
おひざにだっこのおはなし会（0歳～1歳児向）〉、  
〈おひざにだっこのおはなし会（2歳～未就園児向）  
〉、〈絵本の時間〉は毎月実施する定期行事である。  
幼児・児童を対象とした〈おはなし会〉は昨年同月  
比でマイナス39人となってしまったが、保育園に

入る前のこどもを対象としたくおひざにだっこのおはなし会>は昨年同月比でプラス104人と大幅に増加した。続いて、開催行事一覧表の下から2段目のく友の会主催「音楽と朗読の夕べ」>の内容について、今年度はヴァイオリニストの熊谷祥子さんの演奏と読み聞かせのボランティア団体である夢クラブさんとかざぐるまさんの朗読を、お茶を飲みながら楽しむという内容で、例年通り図書館閉館後の夜に開催。今年の参加者は昨年度と比較して32人増加した。この行事についての補足説明は後程友の会会長の神谷さんにお願ひする。

続いて、夏休み中に開催した行事の実績について報告する。まずく図書館を使った調べ学習講座>については、昨年度は白しょうゆをテーマとし、日東醸造さんの工場を見学させてもらった。今年度は、白しょうゆ以外に碧南で作られている物ということで、えびせんべいのスギ製菓さんへ工場見学に伺った。来年度の調べ学習は、砂糖の伊藤忠製糖さんへ工場見学に伺う予定で内々に話を進めている。次にく夏休み行事>の一つであるく工作教室>については、今年度、開催方法を変更した。毎年、工作教室の申し込み開始と同時にお客様が殺到し、申し込みできない方が多かったため、昨年までは1回のみで開催で定員20人であったところを、今年は開催回数を2回（内容は2回とも同じ）にして、1回につき定員15人で開催したため、今年の参加者は30人となった。開催回数が2回になったためスタッフの手間は増えたが、教室申し込み時の混雑が緩和され、スムーズに申込受付をすることができた。また、今年は新しくくハロウィン工作>やく豆本ワークショップ

ップ>を開催した。他の行事については（前年と比較して参加者が）増えたり、減ったりしているが、今年度の行事参加者総数は4,033人で、昨年度と比較すると118%で、行事参加者数は増加した。今年度の2月には<リサイクル本バザー>など大きな行事を開催したが、2月以降の行事については、来年度の第1回目の図書館協議会で報告させていただく。

次に、資料の別紙「平成29年度取材一覧」は、前回の図書館協議会でPR方法についての質問があったため、今年度受けた取材の一覧をまとめたものである。地域誌の「フリモかわら」に掲載されたり、ピッチFMやKATCHなどの取材を受けるなどして図書館のPRをしている。今年度は中日新聞に取り上げられることが多く、中日新聞の「まちかどニュース」には、<米国人が絵本で>という見出しで、英語講師のエリック先生が当館の定例行事である<おひざにだっこのおはなし会>の中で英語の読み聞かせをしてくださったときの様子が掲載された。他にも中日新聞には<雑誌のふろく抽選会>や<豆本展>などが掲載された。当館では特別コレクションとして豆本を収集しており、定期的に本館のギャラリーなどで展示会を開催しているが、今年の<豆本展>も取材を受けた。また、<リサイクル本バザー>も開催日前日に中日新聞に掲載され、そのおかげもあってか、多くの方が来館してくださった。本館の行事報告は以上で、次は分館の開催行事について各分館長より報告する。

南 部：南部分館の行事については資料の3ページと4ページに一覧表があり、上から<おはなし会>、<おひ

ぎにだっこのおはなし会>、<絵本の時間>、<お  
りがみたいむ>、<えほんといっしょに>までが定  
期行事である。どの行事も参加者はやや減少してい  
る。南部は2階にアリーナがあるが、図書館を利用  
している人の中には同じ建物内にアリーナがあるこ  
とを知らない人も多いため、アリーナを開放して  
様々な図書館行事を実施している。今年は6月10  
日<チューブプレーン（リング型飛行機）で遊ぼう  
>や8月5日の<夏休み行事「こいわいかな？こわ  
くない？おばけのおはなし会」>、11月1日の<  
おりがみたいむスペシャル「ブーメランを作ると  
ぼそう」>の3つの行事をアリーナで開催し、こど  
もたちには広い場所で体を動かしたり、ものを作っ  
て楽しんでもらえるようにした。それ以外に、7月  
は七夕、12月にはクリスマス、新年は運試しでじ  
ゃんけん大会など季節にちなんだおはなし会を開催  
した。また、行事ではないが、南部分館のカウンタ  
ーには、臨時職員が段ボールで作製したガチャガチャ  
を置いてあり、1日1回、無料でこどもたちがガ  
チャガチャをまわせるようにした。大した景品は出  
てこないが、こどもたちは喜んでまわしている。職  
員一同、図書館に来るのが楽しいと思ってもらえる  
ような雰囲気作りに努めている。

中 部：中部分館の定例的な行事である<おはなし会>、<  
おひぎにだっこのおはなし会(0歳～1歳児向)>、  
<おひぎにだっこのおはなし会(2歳～未就園児向)  
>については昨年度と比較すると若干参加者が減っ  
た。ただし、<絵本の時間>のみ昨年度より参加者  
数は増えている。<こどもとしょかんまつり>の行  
事のうち6月25日の<作ってあそぶ工作教室「ス

ライムをつくろう」>について、例年であれば工作教室への参加は事前申し込みとなっていたが、今年は開館中に来てくれた親子に、自由に参加してもらおうという形式ととった。教室開催の周知はもちろん事前にしていたが、来館者に声かけをしたことで、参加者は73名と盛況であった。来年度4月に予定している春休みの工作教室も同様の受付方法で開催しようと考えている。続いて夏休みの行事について、7月26日に実施した<夏休み工作教室>では本館と同様、午前と午後の2回で開催した。1回につき定員は15人で、あわせて30人の参加申し込みがあったが、体調不良で1名欠席となったため参加者は29名となった。秋の読書月間では<大人のための干支人形作り教室>を開催。例年、干支人形は和紙を材料に作製していたが、今年は焼き物にした。この教室は大人が対象で、参加者は9名と少なかったが、みなさん童心にかえって今年の干支の犬だけでなくいろいろなものを作って楽しんでいった。講師は市役所OBに依頼して、窯は東部プラザのものを使用した。その他にも、<クリスマスおたのしみWeek>と題してクリスマスにちなんだこども向けの行事を開催。こどもの利用が減る冬休み期間中に少しでも利用が増えるようにと行ったイベントである。内容としては、館内に隠れている折り紙で作られた小さなサンタクロースを探すゲームやクリスマス関連の本を借りた子にくじをひいてもらうなどで、こどもたちも楽しそうであった。これからも、図書館に少しでも興味を持ってもらい、来館してもらえるような行事を開催していきたい。また、図書館で、生きる力、生きるためのヒントを得てもらい

たいと思っている。

会 長：友の会会長の神谷委員から補足説明はあるか。

A委員：＜音楽と朗読の夕べ＞についての補足だが、昨年度より参加者が30名程増え、全体で200名を超えた。会場の広さからするとちょうど良い人数であった。昨年度は、演奏者に空席を見せたくなかったため、スタッフで客席の穴を埋めていたが、今年度は調整せずに済んだ。反省点としては、参加者に景品が当たる抽選会の当選発表のタイミングが早かったこと。イベント前半の夢クラブさんとかざぐるまさんのおはなし会が終了した後のティータイムで、お楽しみ抽選会を開始。その場ですぐに当選番号を発表してしまったところ、ティータイム後のヴァイオリン演奏を待たずにお客様が帰ってしまい、イベント後半の演奏会では空席が目立ってしまった。抽選に外れた大人が帰ってしまったと思われる。この反省をもとに、次回開催時には、当選者発表のタイミングについても注意しなければならない。反省点もあったが、行事全体としては盛況で良かった。

会 長：218名とたくさんのお客様が来られて良かった。

A委員：会場の広さからしても200名くらいがちょうど良い。開園前にお客様が入りきらず、席を詰めてもらったことも空席ができてしまった一因かもしれない。

会 長：次に貸出冊数などについて事務局より説明はあるか。

事務局：資料7ページの貸出冊数は平成29年4月から平成30年1月末までの統計である。貸出冊数の前年同月比は、本館で96.3%、南部分館が96.1%、中部分館が95.6%と、全体でも4%程度の減と

なった。どのような資料の貸出が減ったのか、資料の種類別で詳細に比較したところ、本館と南部では一般書と視聴覚資料（おもちゃ、紙芝居、CD、DVD）が、中部分館は児童書と視聴覚資料が減少していた。原因の分析は難しいが、貸出数減少の理由として、まず、一般書については、スマホの影響が大きいと考えられる。まとまった情報が必要な場合や、考えながら読む場合は紙媒体の方が適しているが、簡易な情報、例えば、ことばの意味や料理のレシピなどは、身近にあり、すぐに検索できるスマホから情報を得ることが増えてきているからだと思われる。なお、児童書について、本館の場合は貸出冊数が微増し、南部は微減している状態で、一般書と比べれば健闘している。その理由として、イギリスの調査では、こどもは、図書館にたくさんある本の中から、自分の読みたい本を選んだり、電子書籍では実感できない自分だけの紙の本を持つこと（所有すること）で、“読書は楽しい”ものと認識することから、こどもには電子書籍より紙媒体の本の方が良いと考える保護者が多いという結果が出ていることから、日本で同様の調査はされていないが、日本でもそういった考えがあるからではないかと思われる。また、ノルウェーの研究によれば、電子書籍では時系列の認識力が落ちるという結果が出ている。私自身も電子書籍と紙の本の両方を読むが、電子書籍は紙に比べて、読後の満足感が少ないように感じる一方、電子書籍は紙の本と違い、見たいページがすぐ開けるて、文庫本1冊程度の重量で約100冊分の書籍データを入れることができるという良い点も持ち合わせている。今のところ、当館では電子書籍を

導入していないが、今後、電子書籍に関する調査が進み、紙媒体と比較したメリット、デメリットなどを考慮しつつ、時代の流れを見ながら導入について検討していきたいと考えている。

中部分館は他館と比較して児童書の貸出冊数の減少幅が大きいですが、これは中部分館の児童書の古さが一因だと思われる。分館長とも相談し、来年度は中部分館の児童書の買い替えを進めていきたい。南部分館については、数年前に児童書を新しくしたことで減少幅が少なく済んだと思われる。

また、3館とも貸出数が減少している視聴覚資料については、特にビデオテープとDVDの貸出数が減少したことによるものと考えられる。すでにビデオテープの再生機器が生産中止となっているため、ビデオテープ資料のDVDへの買い替えを進めている。ただ、図書館が所蔵する視聴覚資料の場合、一般のDVDより著作権料を上乗せして購入しなければならず、市販価格の約3倍と高価であるため、ビデオテープ資料を除籍するからといって、すぐにDVDへ買い替えることは容易ではない。そのため、ビデオテープとDVDの所蔵数が大幅に減少し、利用者が借りられる資料が減ったため、視聴覚資料の貸出数が減少したものと考えられる。

続いて、3館の利用者数と入館者数について報告する。利用者数とは貸出時に貸出カードを読み取った回数、つまり資料を借りた人数である。入館者数とは、入口付近にある機械（ゲート）を通過した人数になるが、ゲートを通り抜ける度に1カウントするため、図書館に入る際に1回、退館する際にも1回カウントされるため、入館者1人につきカウント2

回として算出した数字である。

入館者数については前年度比93%とかなり減っており、月別の入館者数を見ると、3館とも5月から入館者数が減少している。これは、今年度5月のGWが、最大9連休と大型連休にすることもでき、また、期間中は天気がとても良かったことが減少理由の一つと思われる。実際、自分がGW中に出勤した日だけでも館内にいる人が少なく感じた。気候が良く、休みも長いと、図書館に来るよりも、旅行に出かけたり、外で体を動かそうと考える人が増える。そもそも図書館とは、特別な時に利用する施設ではなく、日常生活の中で利用されるもので、休みの日にわざわざ来る施設ではないため、足が遠のいてしまったと思われる。また、5月以降には、6月1日に安城市にアンフォーレがオープンしたことも若干影響していると思われる。

いずれにしても、図書館に少しでも興味関心を持っていただき、実際に足を運んでもらって、資料を借りて、返却した時にまた借りていくというような形で、図書館に行くことを日常生活の一部にしていだきたい。そのためにも、図書館に来るきっかけづくりとなるような、読書と人とを結びつけられるようなイベント等が企画できるよう、知恵を絞っていききたい。

会長：事務局からの事業報告について質問はあるか。また、図書館長に対して意見などはあるか。

A委員：行事について、12月に開催した<へんしん！コスプレSHOW！！>の参加者が昨年度は15人以上だったのに、今年の参加者が5人となってしまった原因は何だと思うか。私が思うに、コスプレイベン

トの開催が12月だと、一般の人がコスプレを意識する10月末のハロウィンとだいぶ時季がずれてしまい、季節外れに感じてしまうからではないか。ハロウィンとクリスマスでは仮装の種類が異なるのかもしれないが、一般的にコスプレといえばハロウィンのときにするものなので、次回、コスプレイベントを開催する際は、時季を考慮していただきたい。行事全般について、幼い時から図書館に興味を持ってもらえるよう、こども向けの行事を多く実施していることは良いことだと思う。こども向け行事が多い中、めずらしく大人を対象にして、中部分館で開催された「大人のための干支人形作り教室」について、費用などの詳細をお聞きしたい。

中 部：参加者に、思い思いに粘土を成型してもらい、その後、東プラの窯を使用して講師に焼いてもらう。焼きと乾燥で2週間程経過したら、自由参加ではあるが、参加者に色付けもしてもらった。東プラの窯は市の施設の行事利用ということで使用料は無料で、講師にはボランティアでやっていただけるよう依頼したため、講師料も無料ですみ、材料費300円程度で開催できた。

A 委員：楽しいイベントだと思う。もう少しPRできたら参加者も集まったのではないか。

中 部：PRしたが集まらなかった。ただ、教室終了後、参加者が作った干支人形を、水族館から借りた展示ケースの中に飾ったところ、興味を示した来館者もいた。来年は、さらに参加者が増えるよう、事前に水族館から展示ケースを借りて作品を展示してみようと思う。

A 委員：参加人数に制限はあるのか。

中 部：参加者一人一人に目を配ろうとすると参加人数には制限がある。目途としては20名。今年度も申し込み時点では11名であったが、インフルエンザで2名減になった。今回の教室は、参加者こそ少なかったものの、参加者の反応はとても良く、教室終了後、焼き物や干支関連の本を借りてくれるなど、一定の成果はあった。

B 委員：利用者数、入館者数を見ると、なかなか苦戦していると感じた。ただ、8月の利用者数については、3館とも前年度より増えているし、入館者数については南部、中部とも前年より増えている。8月は夏休み行事などがあったからだと思うが、担当者として、前年度より増えた理由など思い当たることがあれば教えてもらいたい。

本 館：8月に貸出冊数が前年度より増加したのは、市内小学校への2学期分の団体貸出の準備をしたためである。例年であれば7月に準備していたが、今年は本の修理などがあり、8月に準備したことにより、前年度より貸出冊数が増加してしまったと思われる。夏は毎年忙しいが、今年の夏は今までと違い、忙しいと感じた期間が短かった。例年であれば、お盆が過ぎたころに落ち着くのだが、今年はお盆の前くらいから落ち着いてしまっていた。何か、新規で大きなイベントなどがあったのかなども調べ、時間を掛けて分析し、入館者数、利用者数が増えた理由を考えたいと思っている。

南 部：以前は、夏休みの宿題をするために、夏休みの始めと終わり頃に図書館を利用するこどもたちが多く、お盆頃は館内が空いていた覚えがある。しかし、最近では、夏休みの宿題の締め切りが早まっているよ

うで、休みの前から図書館に来て宿題をすることも  
もあり、図書館を利用するタイミングが早くなって  
いるのかもしれない。このことが、入館者数や利用  
者数の動きに直接影響するかどうかは不明だが、利  
用時期が前倒しになってきていると感じる。

中 部：中部分館の場合、今年の8月は閲覧室の利用者が例  
年より多いと感じた。また、大人からは「図書館に  
来れば涼しい」という声も聞いていたので、涼しさを  
求めて来館された人や夏休みの宿題をするために  
来館した人がいたからかもしれない。

会 長：今年の夏は猛暑だったか。

中 部：猛暑という程ではなかったと思う。それが、出かけ  
やすさにつながり、(利用者が)増えたのかもしれ  
ない。

C 委員：各館からの行事報告を受けて、地元の特産品である  
白しょうゆを行事に取り入れたり、南部は2階のア  
リーナを活用するなど、地域や各館の特色を生かし  
た行事を実施しており、興味深かった。

先程、団体貸出の話もあったが、生徒たちも団体貸  
出の本をよく読んでいる。それに、教科の重点項目  
に合わせた内容の本をピックアップして貸してく  
れるため、レファレンスの効果が行き届いていると  
思う。1点質問だが、蔵書全体の開架と閉架のおお  
よその割合を伺いたい。資料の形態は図書限定で良  
い。

事 務 局：現在、閉架資料が増えて、開架の方が少し減ってい  
る。団体資料を除き、開架が約45%、閉架が約5  
5%である。

C 委員：碧南の図書館は、近隣の小さな図書館と比較する  
と、開架率(在架率)が高いのがとても良い。こ

こちらの図書館では絵画の貸出もしているが、その絵画を学校の図工の授業に取り入れてもらえるよう、学校に大いに宣伝した方が良いのではないか。先程アンフォーレの話も出ていたが、おそらく館長もアンフォーレに行って当然見てきてはいると思うが、今までの図書館の展開とは発想が違う施設だと感じた。自分がアンフォーレの中で印象に残ったのは、2階の一番人通りのあるところに雑誌や新聞コーナーがあるのだが、新聞コーナーには、大きなディスプレイがあり、図書館で購入したであろう電子版を閲覧できる。自分が学んだ時代は、紙媒体の資料が多く、紙媒体もとても重要だと思うが、電子版も便利である。日経など新聞の電子版を購入している方ならご存知かと思うが、電子版の良さとは、スマホでどこでもすぐに読むことができるだけでなく、件名検索ができる点が良い。件名検索をかけると、時系列でもって、社説でも特集記事の中からも、記事を検索して表示してくれるため、調べ物をするときには、非常に利用するメリットが高い。紙媒体だと、たくさんの種類の新聞が並ぶ中から、1紙ずつ棚から出してページをめくり、記事を探さなければならず大変である。ひとりでも多くの方に、図書館に足を運んでいただくために、1紙だけでも良いので電子媒体があると利便性が上がって、良いと思う。一つ残念だと思ったのは、雑誌の盗難がよくあるという掲示を見かけたことだ。本当に学校でも、しっかりと生徒に、図書館は大事に使うよう教育していかなければと思っている。雑誌については、アンフォーレは産官連携ということで、企業のP

Rを雑誌の後ろにつけて、各企業から1年分の雑誌代を出してもらっているそうで、行政はお金がかからず、企業が出してくれた雑誌購入費用で、アラカルトに雑誌を置けている。碧南でも、そのような企業との連携が今後あってもいいのではないかと考えている。

また、安城のアンフォーレでは、貸し出しなどもほぼ自動化になっており、台の上に5冊まとめておいても貸出処理ができる機械や、利用者自身で書籍を殺菌までできる機械が導入され、機械のできる作業は徹底して機械化している。同じことを碧南市でもできればと思うが、予算化するのはかなり難しいだろう。

しかし、碧南の図書館には独自の素晴らしさ、良さがあり、個人的には、一番落ち着ける、楽しい図書館だと思っている。

事務局：電子ジャーナルと電子新聞については、自分の調べたい記事だけを検索できる電子版の方が利用者にとっても使いやすいということで、近隣ではアンフォーレはもちろん、岡崎市の図書館も導入している。碧南市も来年度から中日新聞のデータベース導入を決めている。今までは、職員が何月何日のどの新聞に何が掲載されたかエクセルに打ち込んでいて、利用者から問い合わせがあったときには、そのエクセルを見ながら回答していたが、どうしても入力漏れがあったり、入力情報が多いと、エクセルの表が膨大になってしまっていて見にくかったり、入力するキーワードによって検索結果が出たり、出なかったりと不便であったため、岡崎市と比べれば1紙だけだが、データベースの導

入を決めた。中日新聞のデータベース以外に当館ですでに導入しているデータベースとして、現行法規の法律全般を検索できるものがあり、最新の法律を調べることができる。また、過去の法律の変更経緯や変更点などもわかる。データベース導入前は、法改正があると、資料から改正した部分のページを抜いて、新しいものに差し替えるという加除式であったため、改正後の最新の内容を知ることにはできても、どう改正されたのかを知りたい場合は不便だった。しかし、今はそのデータベースのおかげで、現在の法律が、過去にどのような変遷があって成り立っているのかを、関連法令とあわせて調べることができる。

次に、雑誌の盗難については、以前と比べれば少なくなってきた。毎年2月に実施している蔵書点検では、所蔵資料すべての所在を1冊ずつ確認して、貸出中になっていないのに、館内にもないという所在不明の資料が出ることもある。所在不明の多い雑誌については、利用者には不便をかけてしまうが、1階カウンターで雑誌を保管し、利用したい時にカウンターにいる職員に声を掛けてもらい、読んでもらうという対応をとっている。当館には、ブックディテクションシステムとあって、所蔵資料には盗難防止用の磁気がついており、手続きせずに館外に持ち出すと出入り口付近のゲートでアラームが鳴るようになっている。ただ、盗難防止用の磁気は単価が高く、雑誌すべてに磁気を入れるとなると費用がかさんでしまうため、磁気の入っている雑誌と入っていない雑誌がある。すべての雑誌に磁気が入られない代

わりに、雑誌をカウンターで預かるなどして盗難対策をしている。また、ゲート通過時にアラームが鳴った際の、利用者への声かけも難しく、貸出手続き時に職員がきちんと磁気をはずせていないこともあるし、傘などの金属にも誤作動を起こしてアラームが鳴る場合もあるため、アラームが鳴った利用者に対しては「手続きはお済みですか」と声掛けするくらいで強くは言えないのが現状である。ただ、他館と比べれば、ブックディテクションシステムのおかげで盗難は少ないと言える。

それと、雑誌のスポンサー制度の話も出たが、来年度、当館では雑誌に限らず図書も含め、企業に寄付をしていただけるようPRしていこうと準備を進めている。開始時期は5月、6月頃になるかもしれないが、雑誌以外の本や物品なども寄付していただけるよう、依頼をしに行くつもりで館長と話し合っている。

館長：鶴舞の図書館が「なごや ほんで キフ（寄附）」という取り組みをしており、読み終わった本の寄贈を以前から受けているが、ふるさと納税のように、本を寄付してくださった法人や個人の方に寄付金控除の証明書を発行して、控除として落とせるならば、寄付してくれる方が出てくるかもしれないので、碧南市でもできるように準備をしている。

会長：寄付の件は難しいかもしれないが、前回も言ったとおり、図書館も開館してからだいぶ月日が経ち、いろいろな面で悪くなってきている。経費も厳しいであろうから、寄付も一つの手段と考え、少しずつでも良いので状況が改善できるよう、取り組

んでいってもらいたい。

例えば、企業から寄贈を受けた本には、〈企業贈呈〉など、寄贈本とわかるような印をつけるのか。

館長：寄付者の表示方法などは寄付金額によって変える方向で考えている。基本的には個人から寄贈の話があったときには打ち合わせをして、アンフォーレのように、本の裏に名前を入れるのも良いと思う。他にも、図書館の入口に寄付者の名前を掲示するなども考えている。ただ、当館は公立図書館であるため、企業のPRには気を付けなければならない。

教育長：先程、学校が夏休みの課題を早く集めるようになったという話があったが、最近では、夏休みの課題の提出日を9月1日ではなく、8月6日や25日くらいにして、9月前に課題を提出させる傾向が、特に中学校でみられる。それは、安城市内の踏切で2年連続、9月1日に中学生が自殺していることが関係しており、この地域に限らず、全国的に見ても9月1日の自殺者が一番多く、その理由として、夏休みの課題が出来ていないまま学校に行くくらいなら死ぬ方がましだ、という心境になってしまうためと言われている。自殺者が出た中学校の教師たちは、9月1日には時間差で踏切に立って番をしていると聞いている。夏休みの課題を9月よりも前の8月25日頃に集めることで、教師はその日の生徒たちの様子を見て、課題が出来ていない生徒がいれば、課題が終わってなくてもよいので9月1日にはきちんと学校へ登校するよう声掛けすることができる。夏休みの課題の提出日が早くなったのは、9月1日にこども

たちが死を選ばないようにする  
ためである。

会 長：学校もいろいろと大変だということがわかった。  
先程の新聞の電子化の話について、会の冒頭で、  
私が電子書籍は目が悪くなると言ったが、電子  
化すれば便利になるので、ぜひ導入してもらい  
たい。ただ、老婆心ながら一つ言わせてもらえ  
ば、新聞を電子化しても、操作や見方など電子  
化に慣れていない人もいると思うので、紙媒体  
も残しておいてもらいたい。  
他に質問はあるか。

D委員：3館とも図書館体験学習（職場体験）で中学2  
年生を受け入れているが、対応する職員の人数  
などから、館によって受入人数や日数を制限し  
ているのか。たとえば、東中の場合、職場体験  
期間は4日間となっているが、実際に職場体験  
先へ行くのは2日間で、残り2日間は何をする  
かということ、特別教室の大掃除などのボランテ  
ィアをしているわけで、生徒からは「もっと図  
書館で職場体験したかった」との声もあったた  
め、体験できる人数や日数に制限があったのか  
確認したい。

事 務 局：受け入れ人数については、おおよそ何人までと  
学校に伝えて、日程調整している。学校側が職  
場体験実施日として指定する期間中に、休館日  
の月曜日や月末日が含まれていたりすると体験  
期間が短くなってしまう場合もあるが、火曜か  
ら金曜の間で学校のスケジュールと合えば、3  
日間で受け入れることが多い。こちらも中学生  
が来ると楽しいので、日程さえ合えば、可能な

限り受け入れをしていきたい。

D委員：対応できる職員の人数も限られている上に、今時の手のかかる生徒たちが来たら気を遣われることも多いと思うが、図書館に興味関心をもった生徒ばかりである。図書館での職場体験後、「一番楽しかったことは何か」と生徒に質問すると、絵本の読み聞かせを一緒に聞かせてもらったことだとか、自分の本にカバーをつけたことを挙げていた。(図書館へ職場体験に行った)うちの孫は、カバーをつける本は1冊だけと言われていたのに2冊も持って行き、2冊ともピカピカにして、喜んで家に帰ってきて「この本は宝物だ」と言っていた。図書館の職員の方々が、とても労力をかけて、職場体験学習を実施していただいていることに感謝している。

会 長：職場体験は小学生もやっているのか。

事務局：小学生については、＜1日司書体験＞というイベントで4，5，6年生を対象に、3月の春休み中に希望者を受け付けている。半日だけだが、司書の仕事を体験してもらっている。

B委員：小学校は全校受付しているのか。

事務局：全校受付している。各館で受け入れる学校を振り分けており、本館は鷺小と西小と新小、分館もそれぞれ近くの小学校を受け入れている。

A委員：本の寄贈という話が出たが、DVDの寄贈はどうなのか。先程、個人で購入するより図書館で購入すると価格が3倍くらいになるといっていたが、一般の人がDVDを寄贈に来たら受け取るのか。

事務局：残念ながら受け取ることはできない。図書館で

購入、貸出しているDVDには貸与権というものがついており、貸与権がついているDVDの購入費用は、最終的に著作権者の収入となるような仕組みとなっている。図書館ではそのような仕組みができているところからしかDVDを購入できない。個人の方が購入するような一般流通しているDVDには貸与権がついていないため、図書館で寄贈を受けたとしても貸出できない。図書館では、館内での視聴が可能で、館外への貸出も可能という権利付きのDVDしか置けないのが現状である。

E 委員：自宅で嫁や息子たちの様子を見てみると、一日中スマホを見ており、どんなことでもすぐにスマホで調べている。そのような時代の流れからすると、図書館離れするのは仕方のないことなのかもしれないと思うこともある。ただ、自分の孫や、他の子どもたちを見てみると、絵本を読むことをとても楽しんでいる。やはり、図書館は、来ると落ち着ける場所というかホッとする場所であって欲しいと思う。私自身、ボランティアとしても図書館を利用させてもらうが、職員は図書館運営において大変苦心しているように感じる。この図書館の名前も、当初、「碧南市図書館」ではなく、「碧南市民図書館」という「市民」という部分にこだわって、今に至ったという話を聞いているので、やはり大人から子どもまで多くの市民を巻き込んで、誰もが来やすい図書館にしていくことが、この先ずっと存続していく上で大事だと思うし、利用者にとってもありがたいことだと思う。これからは、こ

どもやお母さん方の利用にも力を入れつつ、高齢者にとっては、のんびり本を読めるような空間であるとうれしい。若い世代よりも、こどもや高齢者が来やすく、利用しやすい、居心地の良い図書館にしていきたい。

## イ 最近の図書館界での話題について

事務局:マイナンバーカードを図書館の利用者カードとして使用するという動きが出始めている。全国に図書館が3千館ほどあることを考えれば、まだごく少数だが、10数館が導入を決めている。碧南市では今のところ導入する予定はないが、これからの動向を見守っていきたい。

続いて<逗子市立図書館おさんぽmap>という資料について説明する。こちらの図書館は、平成27年度、当館の図書館サービス計画を策定する際にアドバイザーをしてくださった小川俊彦先生が館長を務めている。将来の高齢社会に対応した図書館づくりへの取り組みをすでに始めており、この<おさんぽmap>はその一環である。図書館を健康に関する情報を提供するだけの場にとどめず、健康づくりの場にしてしまおうということで作られたのがこのマップで、館内には階段が52段あり、1周すると355mの距離を歩いたことになり、自分がどれだけ運動できたかわかるようになっており、給水ポイントなども記されている。

他にも、川崎市では、認知症の方を支援するための取り組みを始めた図書館もある。通常、図書館では貸出件数などを活動の指標としてお

り、貸出件数が多ければ、その図書館は充実していることになるが、最近では貸出件数も頭打ちになってきており、今後は資料の貸出以外にも、どのような役割を果たしていくべきか、また、どのような図書館が地域にとって必要なのかを考え、実践する図書館も増えてきている。当館でも10年分の総合催事計画というものを策定しているが、その計画の中で、時流や社会情勢を見て、どのような事業を行っていくか見直すとうたっているため、将来、碧南市にはどのような図書館が必要なのか考えて、活動していきたいと思っている。そのためにも、引き続き、みなさまからご意見をいただきたい。

会 長：最近の図書館の話題について説明してもらったが、安城に新しい図書館ができ、近くには高浜の図書館はじめ、いろいろな図書館があるが、それら近隣の図書館を踏まえて、ご質問やご意見はあるか。

A委員：さきほど事務局が話していた川崎市の図書館の認知症への取り組みだが、私もTV（NHK-Eテレ）で見た。認知症に優しい図書館として川崎市の宮前図書館の職員や社会福祉協議会の職員など、いろいろな人がパネリストで出演していた。何かの参考になればと思い放送をDVDで録画したので、ご覧になりたい方がいればお貸しする。

それと、利用者のために、図書館の第1駐車場の出入口表示をもっとはっきりと目立つようにしてもらいたい。よく図書館を利用する人はわかっていると思うが、以前、コンビニの方（高

浜方面) から右折で出口から入ってきた車と出くわしたことがある。出口から入ってきた車と駐車場から出ようとしていた車と向かい合わせの状態になってしまった。最近ではスーパーの駐車場でも入口専用、出口専用とはっきりと目立つ看板をつけているので、図書館も同じように入口、出口をはっきりと表示して、利用者が間違えないようにしてもらいたい。

また、第1駐車場を通り抜けた右側に、民家に挟まれた細い路地(路地を出ると碧海信用金庫の北新川支店に出る)があるが、あそこは通過しても良いのか。

館長：その路地は公道なので通行可能。また、これは余談だが、第1駐車場の入り口専用からその路地までの間は、現在当館の駐車場として使用しているが、実は一部公道を含んでいる。ただ、公道といっても昔でいうところの赤道なので特に問題はないと考えている。自分も神谷委員と同じように、誤って入口のところから出ていく車を見たことがあるので、道路に面した出入口付近への入口専用、出口専用という表示を目立たせることも大事だが、駐車場の中にも出口、入口がわかるような表示も必要だと考えている。

会長：駐車場の路面に矢印を引いてはどうか。

館長：矢印で表示するのも良い案だと思う。せっかく図書館に来てもらったのに、駐車場で事故が起きるのは良くない。すぐには言えないが、改善できるよう予算要求をしていきたい。

会長：新しくできた駐車場がよく空いているのは、場

所がわかりにくく、入り方もわかりにくいせいだと思うので、看板や矢印などを上手に活用して使いやすくしてもらいたい。

館長：駐車場全体で表示などを考えてみる。

F委員：以前、娘が孫を連れて図書館に来たことがあるが、保育園や幼稚園入園前の幼児向けのおすすめ本がどこにあるのかわかりにくいと言っていた。大人であれば＜今月のおすすめ＞というコーナーに本が出してあったり、自分で探すこともできるが、小さい子どもを連れてくる親御さんは、絵本を探す時間がなかなか取れない。幼児用のおすすめ本コーナーみたいなものがあると便利だと思うが。

事務局：0～2歳くらいの乳幼児におすすめの絵本3冊をセットにして、袋に入れたおすすめ本セットが紙芝居コーナーの近くに置いてある。また、もう少し大きい子には、よく読まれている定番のおすすめ本が＜特集コーナー＞に若干置いてある。ただ、種類は多くないので、それ以外の本が欲しいということであれば、職員に声をかけていただきたい。おすすめの本を紹介するし、おすすめの本をまとめた紙をお渡しすることもできる。

会長：どのような本を借りればよいかわからないときや、おすすめの本を知りたい方は、職員にお声かけくださいといった案内表示があるといい。

G委員：アンフォーレのように機械で貸出ができるのも素晴らしいと思うが、私自身、中部分館をよく利用しており、資料を借りるときに司書の方から、館内で開催される折り紙や粘土教室などに

誘っていただくことがあるが、そういったことは機械ではできない。機械で貸出できれば時間短縮になって良い面もあるかと思うが、人と人との触れ合いも残しておいていただきたい。

館長：実は、平成31年度の図書館システム更新に向けて、今年度は自動貸出機の導入も検討したが、現在資料に入っている盗難防止用の磁気をすべてICタグに変更するためには費用がかなりかかることがわかった。杉浦(あ)委員も言うように、安城や大府の図書館でも自動貸出機を導入しており、当館利用者からも他の図書館には自動貸出機があるのに、と言われたこともある。しかし、私自身、半日だけだが貸出の窓口にいると、職員との会話を楽しんでいる利用者もいるため、すべてを自動貸出機にするのはどうかと思う。一方で、急いでいる人や自分の借りる本のタイトルを他人に見られたくない利用者もいるので、全てを自動貸出機にしてしまうのではなく、一部導入が妥当だと考えている。高齢の利用者は特に、会話をしたい人もいるため、人を介した窓口を無くすことは難しい。また、利用者の方から職員に声を掛けてくれるのは、職員を快く感じてくださっているということだとも思っている。

会長：他に何か意見はあるか。事務局からはどうか。

館長：教育長から話のあった新年度予算について、補足させてもらいたい。

小学校や中学校、保育園や児童クラブなどの団体には、毎年、先生方と相談して、要望に沿った本を図書館からまとめて貸出をしており、そ

これらの資料は団体用図書として、他の資料とは区別している。この団体用図書は、直近では平成17年か18年に購入したきりで、中身も外見も古くなってしまったため、昨年度と今年度で教育委員会に依頼をし、団体貸出用の図書購入費用を予算要求してもらったところ、市から50万円の予算をつけてもらうことができた。買い替えることのできる本は少ないかもしれないが、小学校の英語授業にも対応できるよう、買い替えを進めていきたい。

会長：少しでも予算がつけば、その分、図書館が充実していくので、事務局には頑張ってもらいたい。他に何か意見はあるか。  
無いようなので、これで平成29年度第2回碧南市民図書館協議会を終了する。